

13【複数年度(2年目)】AIやIoT活用による観光交通を分散させる交通社会実験(大分県由布市)

1. 実験概要、留意すべき項目

- AIカメラを活用した情報提供によるルート分散、交通手段変更等について検証を行う。
- AIカメラから取得した渋滞情報に基づく情報発信に結びつく実験となっていること。

2. 実験内容、実験結果

- 盆地エリアの混雑状況を把握するAIカメラの設置
⇒AIカメラ判定結果とETC2.0プローブデータ分析結果の一致率について、シルバーウィークは83.3%となり、目標の80%以上の精度を確保
- 経路を分散する渋滞情報及び迂回路案内に関する情報発信
⇒ETC2.0プローブデータより迂回状況进行分析したところ、ゴールデンウィーク・シルバーウィークともに大きな変化は確認できなかったものの、一部迂回による交通変動を確認
- 交通手段を分散する盆地エリア周辺のパーク&ライド
⇒アンケート結果より、ゴールデンウィーク・シルバーウィークともに宮尻駐車場利用者の利用満足度が高いことやモビリティの料金妥当性を確認



実験概要

3. 意見と検討、対応方針

意見	意見に対する検討、対応方針
本実験を認知していない地域住民がいるため、周知方法を検討されたい。	市報への掲載や旅館へのチラシ配布等を行うことで住民への情報発信を実施する。
本実験結果を踏まえ、今後の課題を抽出・整理されたい。	取得した教師データを基に、適宜閾値調整を行い、AIカメラの精度向上を図る。また、P&Rの利用状況を踏まえ、利用時間の妥当性を確認する。

4. 本格実施に向けた課題、今後の取り組み予定

課題	対応方針
HP・チラシ等の事前案内が不十分であると、行動変化へ繋がらない。	迂回誘導を目的に、由布市HPや道の駅で継続的に情報発信を行う予定である。
ゴールデンウィークは宮尻駐車場のみの駐車台数では不十分なので、フリンジパーキングとして利用する駐車場の複数設定について検討が必要である。 駐車場が多数点在するため、観光交通車両が幅員の狭い市道に進入し、空きのある駐車場を探すうろつき交通による混雑が発生する。	今回の知見を活かして、大型連休の際にはパーク＆ライドの実施を検討する。 実施にあたり、駐車場設定、使用モビリティ、運行ルート、料金設定に関しては、継続的な検討が必要である。

5. 今後のスケジュール

- R5年度 取り組み内容を精査し、春と夏の大型連休に取組みを実施、比較検証
- R6年度 カメラ設置箇所を最適な箇所に見直して、GW、SWに取組みを実施
- R7年度以降 実装に向けたAIカメラ取得データの分析、渋滞情報及び迂回路案内に関する情報発信、パーク＆ライドについて実施

6. 制度改正、マニュアル作成、全国展開に向けた提案

- AIカメラ設置にあたり、地域特性・混雑状況等に応じ適切な設置箇所の選定を行うことで、有効なデータ取得が可能となる。また、画角の設定において、障害物(電柱・植栽)が映りこまないようにすることで、より正確なデータを取得できる。
- 情報発信に関して、特設ウェブサイトへのアクセス数を増加させるためには、既存のアクセス数が多いサイトやSNSとの連携が効果的である。ターゲットとする年齢や居住地に応じて、情報発信ツール(新聞・テレビ・SNS・チラシ等)を選択する必要がある。
- パーク＆ライドでは、付加価値をつけることで利用者満足度が向上する。モビリティを選択する場合、地域特性に応じて検討が必要であり、利用を促すルート設定やモビリティ駐車スペース確保等も考慮する。加えて、混雑エリアや混雑時間帯を回避してくれた利用者に対して、ノベルティや地域クーポンの配布することも有効と考えられる。